

# 庄内大豆通信 第 2 号

令和3年5月 21 日

庄内総合支庁農業技術普及課 TEL:0235-64-2103 FAX:0235-64-2104

## 大豆の播種適期は5月下旬～6月上旬！ 適期播種で高品質・安定生産に向けた一歩を！

大豆は、播種後の初期生育の良し悪しが収量に大きく影響する。

適期に播種が行えるように準備を進め、梅雨入り(6月中旬頃)までに1回目の培土を行える生育量を確保しよう。

### 1. 播種前の準備

#### (1) 播種量

播種量は、種子の百粒重や栽植密度によって変わるため、下表を参考にして十分な量の種子を用意する。

表 播種量の目安 (参考百粒重)

品種 (参考百粒重)	播種量(kg/10a)	栽植本数(本/10a)	畦間×株間・1株本数
リュウホウ、エンレイ (中粒) (26g)	約 3.5~4.0kg	12,000~14,000	75cm×20~17cm・2本
リュウホウ、里のほほえみ (大粒) (35g)	約 4.7~5.5kg		

※目安どおりの播種量になるように、播種前に必ず播種機を調整する。

！播種が適期(6/10)より遅くなる場合は、目標栽植本数を多くする。

(15,000本以上/10a、畦間75cm×株間16cm程度)

#### (2) 種子消毒

紫斑病及び初期害虫(ネキリムシ類・タネバエ)の防除のため、種子消毒を行う。

薬剤により対象病害虫が異なるため、下表で確認する。

ネキリムシ類の成虫はタデ科等の広葉雑草などに産卵するため、例年、ネキリムシ類の発生が多い圃場では、圃場周辺の除草も徹底する。

表 主な種子消毒薬剤とその適用病害虫

適用病害虫 薬剤名	ネキリムシ類 アブラムシ類 フタスジヒメハムシ	タネバエ	紫斑病	茎疫病	苗立枯病	黒根腐病	鳥害
クルーザーFS30	○	○					
クルーザーMAXX	○	○	○	○	○	○	ハト キジバト
キヒゲン		○	○				ハト
キヒゲンR-2フロアブル		○	○		○		ハト カラス

※クルーザーFS30と他の剤を併用する場合は、処理後よく乾燥させてから他の剤を処理する。

## 2. 播種

### 播種適期

大豆の播種適期は **5月下旬～6月上旬**。

播種が遅れるに従い、開花までの生育期間が短くなり、節数や着莢数の減少につながる。そのため、生育量の確保には適期内の播種が重要。

昨年度は湿害の影響を受けた圃場がありました。  
播種日・播種深度に気を付け、湿害回避を行いましょう！

### 湿害対策

出芽の際に過湿条件になってしまうと、発芽力が低下するとともに、奇形芽、腐敗などにより出芽率が著しく低下する。次の点に留意し、播種を行う。

○播種は **3～4 日後まで好天の日** に行うようにする

○播種深度（覆土深） **3 cm 程度**

深すぎると湿害の発生が懸念される。

「里のほほえみ」等の大粒品種は出芽に要する水分量が多いため、浅すぎると干ばつ時に発芽不良になる。

小畦立て播種、うね内部分施用播種などの播種技術の導入も湿害回避につながる。

※詳しくは、庄内大豆通信第1号（令和3年4月30日発行）を参照。



図 小畦立て深層施肥播種

## 3. 除草剤散布＜播種後3日以内に必ず散布！！＞

### は場の条件

○圃場が乾燥しすぎると効果が劣るので注意が必要。

乳剤の場合、乾燥が強い時は登録の範囲内で希釈水量を増やし、ゆっくり散布する。

○降雨時または大雨前の使用は、効果が劣化や薬害のおそれがあるので使用を避ける。

### ！ 散布時の注意

○播種後に使用する土壌処理除草剤の施用時期は、**大豆出芽前！**

噴霧器に詰まりがないかを事前に点検し、規定量を散布する。

○ドリフトによる他作物への薬害を防ぐため、散布時の水圧や風向き等に注意を払う。

○除草剤は使用時期や散布量等ラベルをよく確認！

### ⚠ 難防除雑草に注意 ⚠

帰化アサガオやアレチウリ等は、蔓延すると根絶が困難になる。発生を確認次第、抜き取りを行う。



図 帰化アサガオ

**あぐりん(やまがたアグリネット)で最新情報入手！**

PC やスマートフォンから、作物別・地域別のタイムリーな技術情報・病害虫・防除・農薬情報をご覧になれます！

